

逸翁美術館編

絵巻

大江山酒呑童子・
芦引絵の世界

2011年9月刊行

▶ A4判・並製本・96頁／定価1,050円（税5%込） ISBN978-4-7842-1591-1

■ 収録絵巻一覧 ■

※はカラー、「大江山絵詞」「酒伝童子絵」は全巻掲載
 (※1) サントリー美術館所蔵 (※2) 徳川黎明会所蔵
 その他は阪急文化財団所蔵

※大江山絵詞 重要文化財	南北朝時代
※酒伝童子絵(※1)	室町時代
※奈良絵本「大江山（千丈嶽）絵詞」	江戸時代
※大江山酒呑童子絵巻残欠	江戸時代
※大江山絵巻	江戸時代
※芦引絵 重要文化財	室町時代
※青蓮院稚児草紙絵巻(※2)	南北朝～室町時代
十二類合戦絵詞残欠	江戸時代
是害坊絵詞（天狗草紙絵巻）	江戸時代
結城戦場絵巻	江戸時代
蒙古襲来絵詞	江戸時代
六波羅合戦巻	江戸時代
後三年合戦絵巻	宝暦10年(1760)
弘法大師行状絵巻残欠 伝土佐行光	室町時代
証空絵詞残欠（泣不動縁起絵巻）	南北朝時代
高野大師行状絵巻 重要美術品	鎌倉時代
春日権現絵巻	文政2年(1805)
熊野本地絵巻	室町時代
融通念仏縁起絵巻	江戸時代
石山寺縁起絵巻	江戸時代
道成寺縁起	江戸時代
王子権現縁起絵巻	江戸時代
加茂祭絵巻残欠 伝土佐隆兼(高階)	室町時代
加茂祭絵巻	江戸時代
熊野詣絵巻残欠	室町時代
奈良絵本「竹取物語絵巻」	江戸時代
奈良絵本「八幡之縁起絵巻」	江戸時代
奈良絵本「牛若丸烏帽子折」	江戸時代
奈良絵本「ささやき竹（雛牡丹姫物語）」	江戸時代
奈良絵本「むらまつの物語（一若丸絵巻）上」	江戸時代
奈良絵本「伊勢物語」	江戸時代
奈良絵本「落窪物語」	江戸時代
奈良絵本「伏見常盤」	江戸時代



「大江山絵詞」

2011年9月17日(土)から12月4日(日)まで、大阪府池田市の逸翁美術館で行われる同名展の図録を兼ねた一冊。館所蔵「大江山絵詞」（重文）とサントリー美術館所蔵「酒伝童子絵」をそれぞれ全巻カラー掲載し、酒呑童子絵巻の二大系統を対比させる。お伽草子として広く読まれるようになっていった鬼退治の物語とともに、軍記物の絵巻なども収録。

また、僧侶と稚児の恋愛を中心に中世社会を生き活きと描き出した、館所蔵「芦引絵」（重文）などをも含め、逸翁小林一三の絵巻コレクションを一挙公開。

■ 内容 ■

- 【図版・解説】 カラー51頁・モノクロ32頁
 【論考】 大江山絵詞の展開（伊井春樹）
 足引絵—その独自性について—（宮井肖佳）

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
<http://www.shibunkaku.co.jp> E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行: 思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	絵巻 大江山酒呑童子・芦引絵の世界 本体1,000円(税別) ISBN978-4-7842-1591-1			
お名前			tel		
			e-mail		
ご住所	〒				
送本方法	☐ 書店経由（このちらしを書店にお渡し下さい） ☐ 代引（書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い下さい）				
書店番線印					

※入門 奈良絵本・絵巻

石川透著

室町時代後期から江戸時代中期にかけて作られた奈良絵本・絵巻。御伽草子から王朝物語、軍記物語、歌集、日記、随筆、幸若舞曲、仮名草子など広範にわたる奈良絵本・絵巻の世界を、簡単な解説とカラー写真でご紹介する。元禄年間に京都で活躍した女性絵師・居初つなの作品も収載。

▶B5判・126頁／定価2,100円

ISBN978-4-7842-1531-7



源氏物語 千年のかがやき

国文学研究資料館編

新出の国文学研究資料館蔵『源氏物語 団扇画帖』全54枚をカラーで掲載し、詳細な解説を付す。あわせて図様が近似する他の源氏絵についても参考資料として多数掲載。描く・書き写す・鑑賞するという3つの観点から、源氏物語が千年間どのように享受されてきたのか、豊富なカラー図版で紹介。

▶A4判・168頁／定価1,995円

ISBN978-4-7842-1437-2



百人一首万華鏡

白幡洋三郎編

和歌・文芸の領域はもちろん、日本人の生活全般にわたって深い関わりをもつ百人一首を、歌の解釈はもとより、歴史、選び方、カルタ、翻訳など、さまざまな角度から紹介し、その文明的広がりをさぐる。それぞれのテーマにそった版本、各種カルタ、翻訳本など、カラー口絵（16頁）収録。

▶B5判・178頁／定価2,520円

ISBN4-7842-1223-X



祈りの文化 大津絵模様・絵馬模様

信多純一著

江戸時代から現在まで、近江大津にて作られ、手軽な土産として全国津々浦々の人々に愛された民画・大津絵。その多彩に綾なす信仰、祈り、教訓、そして遊びの面々は、多くの人々の想念の数々を端的に顕す——その起源・絵馬との共通点・画題の意味など新考察を加え、多くの図版にて解説した全大津絵の事典。

▶B5判・178頁／定価3,675円

ISBN978-4-7842-1425-9



歴史のなかの源氏物語 【9月刊行予定】

山中裕編

シリーズ古典再生③

『源氏物語』に、その時代世相がいかに反映しているか。撰問時代の文化のあり方、女流日記と女房文学の本質、とくに道長の存在と紫式部の関係に重点を置いた編者の『源氏物語』論を第一部に、第二部は、準拠論、節会の本質と意義、年中行事・通過儀礼の宴と儀式の本質など、15人の気鋭による、歴史のなかの源氏物語についての最新成果。

▶46判・290頁／定価2,310円

ISBN978-4-7842-1423-5

一千年目の源氏物語

伊井春樹編

シリーズ古典再生①

たんなる古典復興ではなく、それらの作品を現代の眼でもう一度見直して再生することを目指して開催された国文学研究資料館主催シンポジウム「一千年目の源氏物語」、思文閣出版・京都新聞社主催シンポジウム「私の源氏物語」をもとにし、斯界の識者による「源氏物語論」を集約。次の世代へとその価値を継承する。

▶46判・252頁／定価1,680円

ISBN978-4-7842-1408-2

日本の心と源氏物語

岡野弘彦編

シリーズ古典再生②

神話時代の男女の姿のなかには、神を育て、神に添って、神の意志を普遍化するという女性特有の聖なる力が見いだせる。それこそが、『源氏物語』の男女の恋にも続いている——宮中歌会始の選者を永年務めた編者が、師である折口信夫が体系化できずに終わった「いろごのみの道徳」論に向きあい、『源氏物語』に流れる日本の心を読み解く。

▶46判・246頁／定価1,890円

ISBN978-4-7842-1412-9

『狭衣物語』 享受史論究

川崎佐知子著

平安朝後期物語の傑作『狭衣物語』の受容の様相を文献学的見地から徹底的に分析検証し、連歌師紹巴が天正18年に著した『狭衣下紐』を享受史の中核に位置づける。陽明文庫蔵『狭衣下紐』2種（近衛信尹筆外題・近衛尚嗣筆外題）、宮城県図書館伊達文庫蔵『狭衣物語抄』（猪苗代兼寿作）ほか未紹介資料5種を全文完全翻刻掲載。

▶A5判・640頁／定価12,600円

ISBN978-4-7842-1486-0

崇徳院怨霊の研究

山田雄司著

日本史の方面からはほとんど研究されなかった崇徳院怨霊を時代背景の中で位置づけ、日本史上最大の怨霊とされる崇徳院怨霊が「いつ」「誰によって」「いかなる状況下で」語られるようになったのか、そして崇徳院怨霊の跳梁を記す『保元物語』がいかにしてまとめ上げられていったのかを、文書・記録・物語の相互関係を細部にわたり検討。

▶A5判・314頁／定価6,300円

ISBN4-7842-1060-1

太平記的世界の研究

八木聖弥著

『太平記』研究は、国文学の本文研究、歴史学の事実認定に偏してきたが、本書では、『太平記』の描く時代を広く文化史的視点から論じ、多様な価値観が結合されたその時代性を浮き彫りにする。

【内容】研究史／『太平記』とその時代／『太平記』的世界の信仰／猿楽能と『太平記』的世界／『太平記』的世界から幽玄の世界へ

▶A5判・290頁／定価7,140円

ISBN4-7842-1021-0

※近世御用絵師の史的研究

武田庸二・江口恒明・鎌田純子編 幕藩制社会における絵師の身分と序列 御用絵師を、禁裏、幕府、諸藩御用などの公的事業に携わるすべての絵師とし、それら画業を生業としていた人々が、全国的官位官職制度の中にどのように組み込まれていたのか、時の為政者は、職能集団たる絵師の組織をどのように編成、掌握していたのか、絵師たちは、自家の繁栄のために、どのような身の処し方をしていたかを論じる。

▶A5判・458頁／定価7,875円

ISBN978-4-7842-1392-4

※風俗絵画の文化学 都市をうつすメディア

松本郁代・出光佐千子編

中近世における風俗絵画のメディア性に着目し、そこに描かれなかったものの持つ意味や享受者の視点、都の社会における聖と俗の姿、風俗絵画に表された芝居空間や行事のかたちが年代とともにどのように姿を変えたのか、さらには、「風俗画」が近代に至りいかなる解釈を得て「風俗画」となり得たのか、など様々な視点からアプローチ。

▶A5判・368頁／定価6,825円

ISBN978-4-7842-1469-3

太子信仰と天神信仰 信仰と表現の位相

武田佐知子編

時代を超えて、上下を通じた諸階層の篤い崇敬を得てきた、両信仰の比較研究。各専門分野の研究者による、両信仰に関わる美術史、文学史、宗教史、芸能史的研究を集成し、時代のニーズとともに変化する信仰の形態や、それに付随するイメージの付与、そして宗派や地域を越えて多面的に利用されるそれぞれの信仰の進化形について明かす。

▶A5判・354頁／定価6,825円

ISBN978-4-7842-1473-0

いけばなにみる日本文化

鈴木榮子著

明かされた花の歴史

古代の供花から現代のいけばなにいたるまで、日本文化に一貫して継承されてきた精神とは、「生」への意識すなわち生命を尊ぶ思想である——“お稽古事”としてとらえられがちな、外形の歴史にしか注目されてこなかったいけばな。その精神にはじめて学問的な光をあて、日本文化という大きな枠組みの中でとらえる。

▶46判・358頁／定価2,730円

ISBN978-4-7842-1557-7

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。